

19. 二次性副甲状腺機能亢進症の術後再発例の²⁰¹Tl,**^{99m}Tc シンチグラフィによる責任病巣局在診断**

高柳 義弘 田澤 聰

(仙台社会保険病院・放)

慢性腎不全透析患者の内科的治療に抵抗する副甲状腺機能亢進症に対して、上皮小体全摘と細切組織片の前腕への自家移植を当院では年間30例前後施行しているが、副甲状腺機能亢進症再発がしばしばみられる。最近10年間に再手術が施行された再発20症例を対象とし各種画像診断を評価した。組織にて過形成の上皮小体(再発責任病巣)が確認された19例では²⁰¹Tl, ^{99m}Tc デュアルシンチグラフィは頸部再発(過剰腺が4例、異所性が4例)と移植腺依存性再発(11例)の鑑別に、全例で有用であった。その中にはCTや超音波では検出されないものも含まれていた。ただし、経過中のデュアルシンチグラフィでは所見が不明瞭な症例もあり、最軽量の摘出上皮小体は0.6gであった。

20. 副甲状腺機能亢進症の^{99m}Tc-MIBIによる検討

水尾 秀代 伊藤 義雄

(北海道勤医協中央病院・放)

石井 和真

(同・放部)

柳田 光庸

(札幌病院・放部)

近年、副甲状腺機能亢進症に^{99m}Tc-MIBI(MIBI)が有用との報告がある。1993年12月-1994年4月の間にTl-Tc subtraction scintigraphy(TTS)と、subtractionなしのMIBI(600MBq静注30分後像)を撮影した副甲状腺機能亢進症の5症例(腺腫4例4腺、過形成1例4腺)を検討した。腺腫の2腺(0.38g, 1.1g)はMIBIで明らかなhot spotを示しTTSとほぼ同等に有用であった。のこりの腺腫2例(1g以上)と過形成では、TTSと同様に判定が難しく、今後¹²³I, ^{99m}Tcとのsubtractionなどの検討が必要と考えられた。

21. 肺腫瘍への薬剤集積**—^{99m}Tc-MIBIと²⁰¹Tlの比較—**

鐘ヶ江香久子 伊藤 和夫 加藤千恵次

中駄 邦博 古館 正従 (北大・核)

花田 太郎 (同・一内)

^{99m}Tc-MIBI (^{99m}Tc-methoxyisobutyl-isonitrile) は心筋シンチグラム製剤として使用されているが、²⁰¹Tl 同様肺の良性および悪性腫瘍への集積が報告されている。今回肺腫瘍が疑われた5例に対し ^{99m}Tc-MIBI および²⁰¹Tl による肺SPECTを施行したところ、肺癌3例中2例に²⁰¹Tl 同様の集積を認め、²⁰¹Tl の集積がみられなかった1例には^{99m}Tc-MIBI の集積も認められなかった。悪性腫瘍が否定されている1例には^{99m}Tc-MIBI の集積を認めなかった。また肺結核の1例には^{99m}Tc-MIBI および²⁰¹Tl 共に淡い集積亢進を認めた。肺腫瘍に対する^{99m}Tc-MIBI および²⁰¹Tl の集積はほぼ同等と考えられた。

22. ^{99m}TcO₄⁻および⁶⁷Ga-citrateシンチグラフィ併用による唾液腺腫瘍質的診断向上の可能性

山田 有則 早坂 和正 斎藤 泰博

吉川 大平 高塩 哲也 秀毛 範至

吉田 弘 竹井 秀敏 油野 民雄

(旭川医大・放)

佐藤 順一 石川 幸雄 (同・放部)

^{99m}TcO₄⁻および⁶⁷Ga-citrateの両検査併用が、唾液腺腫瘍質的診断向上に寄与するか否かを検討した。対象は組織学的に確定診断がなされた唾液腺腫瘍38例である。^{99m}TcO₄⁻検査では、Warthin腫瘍の一部で集積を示したがその他の組織では全例集積を示さなかった。一方、⁶⁷Ga 検査では、悪性腫瘍全例で集積を示すと共に良性病変の一部でも集積を示した。以上より、^{99m}TcO₄⁻集積陽性であれば良性腫瘍(Warthin腫瘍)との診断が可能であり、⁶⁷Ga 集積陰性であれば悪性腫瘍を否定可能との結論に達した。